

神崎市地域経済動向調査(7月号)

■全国の景況

◇月例経済報告(R2.6月号より)

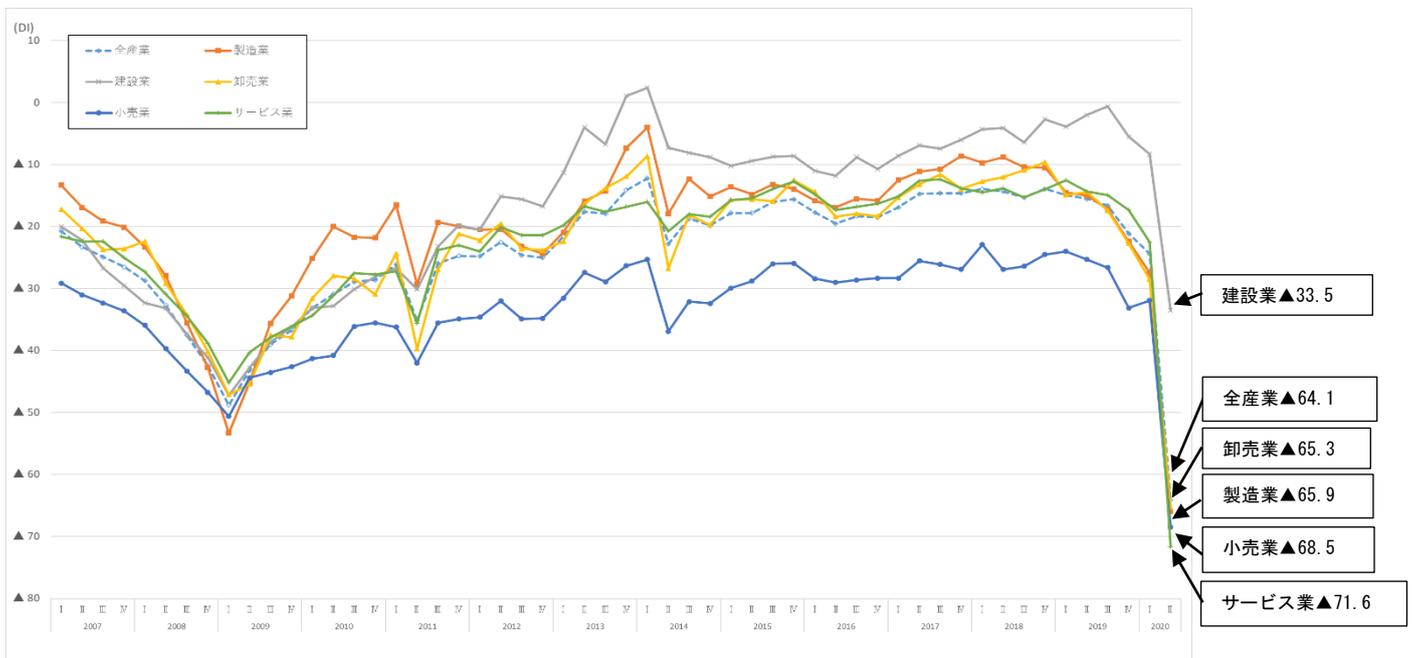
『景気は、新型コロナウイルス感染症の影響により、極めて厳しい状況にあるが、下げ止まりつつある』

- ・個人消費は、緊急事態宣言の解除に伴い、このところ持ち直しの動きがみられる。
- ・設備投資は、このところ弱含んでいる。
- ・輸出は、感染症の影響により急速に減少している。
- ・生産は、感染症の影響により、減少している。
- ・企業収益は、感染症の影響により、急速に減少している。
- ・企業の業況判断は、厳しさは残るものの、改善の兆しがみられる。
- ・雇用情勢は、感染症の影響により、弱い動きとなっている。
- ・消費者物価は、横ばいとなっている。
- ・先行きについては、感染拡大の防止策を講じつつ、社会経済活動のレベルを段階的に引き上げていくなかで、各種政策の効果もあって、極めて厳しい状況から持ち直しに向かうことが期待される。ただし、国内外の感染症の動向や金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。

◇中小企業景況調査(2020年4~6月期より)

『中小企業の業況判断DIは、急激に悪化し、6期連続の低下となった』

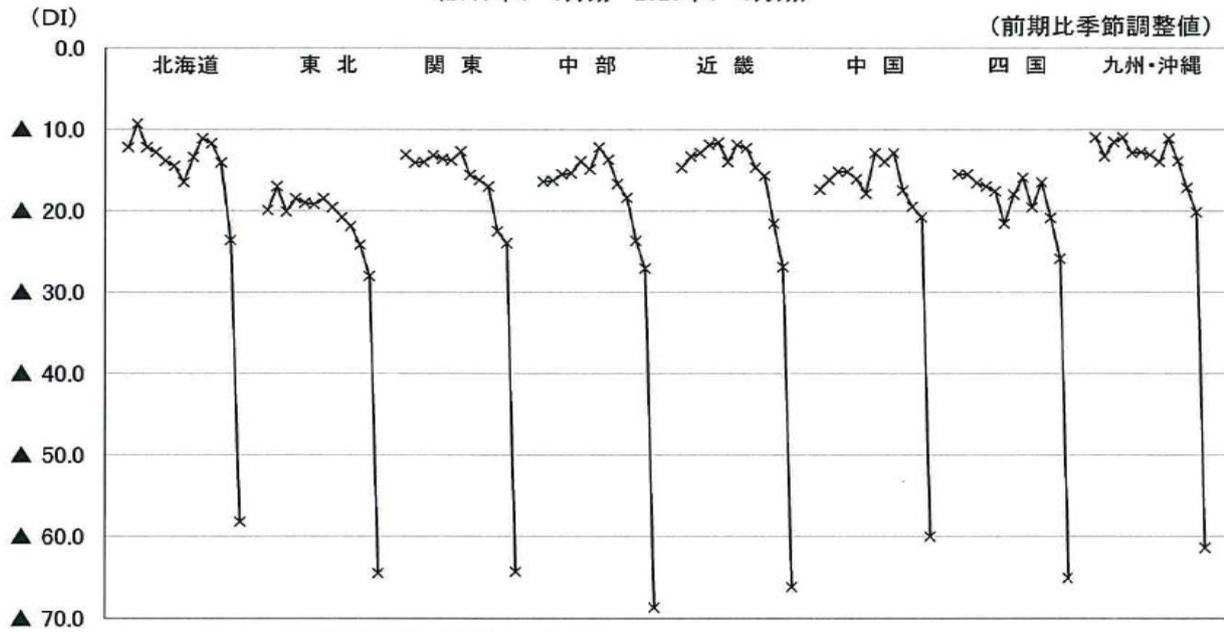
<中小企業の業況判断(2020年4~6月期)>



- ・2020年4~6月期の全産業業況判断DI値は、▲64.1(前期より39.7ポイント減)となり、6期連続で低下した。
- ・業種毎には、全業種でポイント減少となっている。ポイント減少幅が最も小さいのは建設業となっている。

<地域別業況判断(2020年4~6月期)>

中小企業の地域別業況判断DIの推移(全産業)
(2017年4~6月期~2020年4~6月期)



(注)1. 地域区分は、各経済産業局管内の都道府県により区分している。

2. 関東には、新潟、長野、山梨、静岡の各県、中部には、石川、富山の各県、近畿には、福井県を含む。九州・沖縄は、九州各県と沖縄県の合計。

- ・地域別の業況判断では、九州・沖縄をはじめ、全ての地域でマイナス幅が拡大している。

■佐賀県の景況

◇佐賀県内経済情勢報告 (R2.4 より)

『県内経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、経済活動が抑制され、足下で大きく下押しされており、厳しい状況にある』

- ・個人消費は、新型コロナウイルス感染症の影響により、一部業種では業績が足下で大きく下押ししているなど、弱含んでいる。
- ・生産活動は、新型コロナウイルス感染症の影響により、一部生産停止などから、生産が足下で大きく下押ししているなど、弱含んでいる。
- ・雇用情勢は、改善してきたが、足下で新型コロナウイルス感染症の影響がみられる。
- ・設備投資は、令和元年度は増加見込みとなっている。
- ・企業収益は、令和元年度は減益見込みとなっている。
- ・住宅建設は、前年を下回っている。

◇佐賀県主要経済統計速報 (R2.6 より)

佐賀県主要経済統計速報 6月号より、佐賀県内の経済情勢は以下のとおりとなっている。

佐賀県経済の最近の動向(対前年同月比)をみると、

- ・需要面では、百貨店・スーパー販売額(4月)は、全店販売額が2ヵ月連続で下回った。
乗用車新規登録台数(5月)は、7ヵ月連続で下回った。
新設住宅着工戸数(4月)は、6ヵ月連続で下回った。
公共工事前払保証請負金額(5月)は、5ヵ月連続で上回った。
- ・生産面では、鉱工業生産指数(4月)は、7ヵ月連続で下回った。
- ・雇用面では、有効求人倍率(就業地別)(4月)は8ヵ月連続で下回った。
- ・企業倒産(5月)の件数は2件増で、金額は2ヵ月ぶりに上回った。
- ・金融機関(銀行)貸出金残高(5月)は、4ヵ月連続で上回った。

<佐賀県内の参考指数>

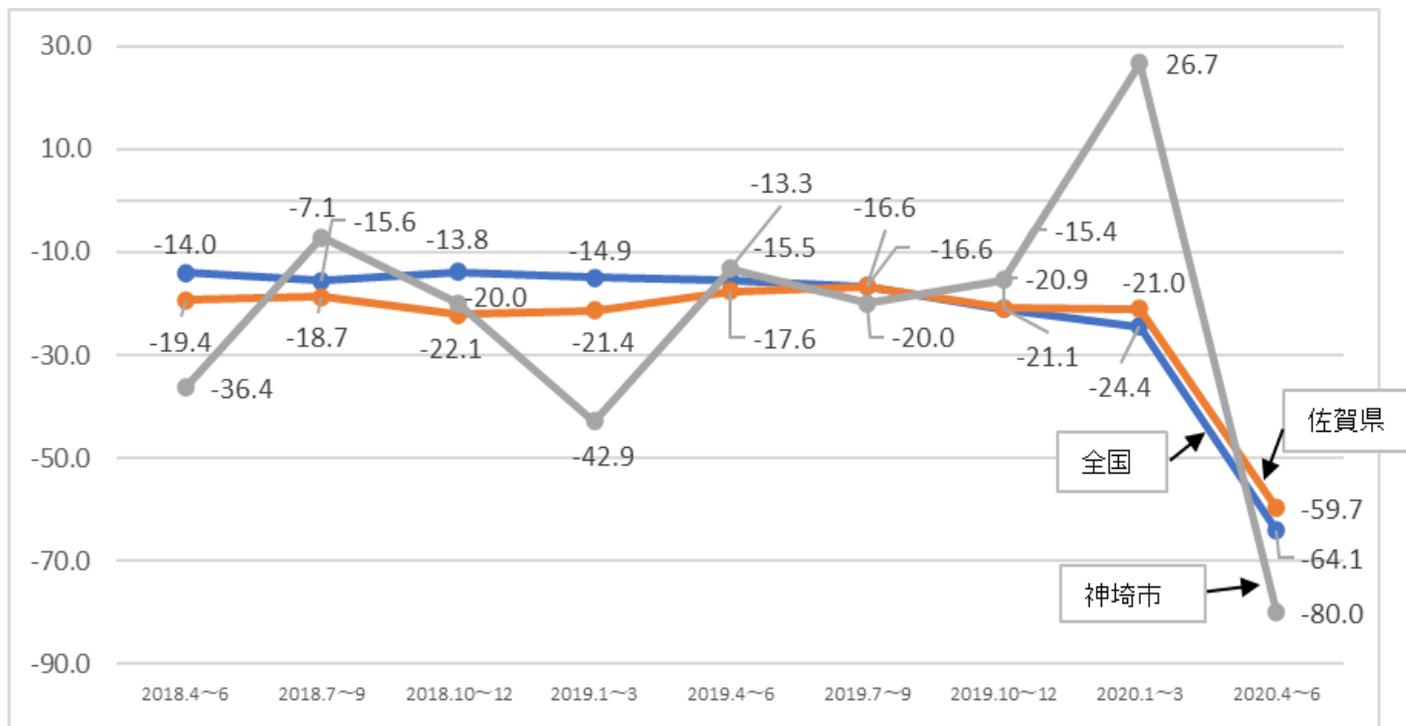
項 目		対象月	数 値	対前年同月比・ 増 減 分	前月比・増減分		
県内需要	個人消費	百貨店・スーパー販売額	全店販売額	4月	42億86百万円	△12.2%	△13.4%
			既存店販売額	4月	—	△14.3%	—
	住宅建設	乗用車新規登録台数	5月	1,228台	△47.4%	△21.6%	
			新設住宅着工戸数	4月	253戸	△60.8%	△31.1%
公共工事	公共工事前払保証請負金額	5月	166億30百万円	107.4%	△40.7%		
生産	鉱工業生産指数(注)	4月	96.2	△5.2%	△1.2%		
雇用	所定外労働時間数指数(事業所規模30人以上)	3月	94.1	△17.7%	—		
	有効求人倍率・受理地別(季節調整済)	4月	1.13倍	△0.19	△0.04		
	有効求人倍率・就業地別(〃)	4月	1.34倍	△0.25	△0.04		
企業倒産	企業倒産状況(累計は年間ベース)(注)	倒産件数(当月)	5月	3件	2件	1件	
			〃(累計)	16件	4件	—	
		負債金額(当月)	5月	1億69百万円	1億49百万円	1億29百万円	
			〃(累計)	27億54百万円	20億06百万円	—	
物価金融	消費者物価指数(佐賀市)	4月	102.2	0.4%	△0.1%		
人口	金融機関(銀行)の貸出残高	5月	1兆3,586億円	2.6%	2.1%		
	推計人口	5月	810,431人	△5,096人	711人		
	推計世帯数		315,129世帯	2,803世帯	1,027世帯		
景気動向指数	先行指数	3月	30.0%	—	—		
	一致指数		42.9%	—	—		
	遅行指数		50.0%	—	—		

■神埼市の景況

『神埼市の景況は佐賀県の情勢に類似すると思われる』

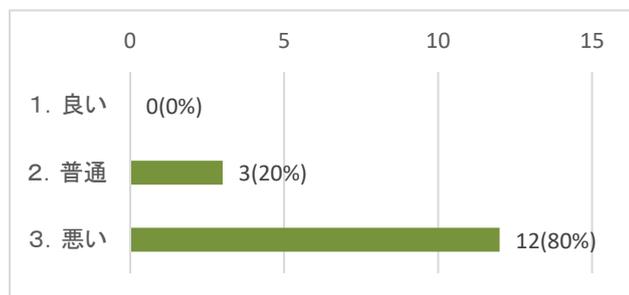
◇中小企業景況調査(2020年4～6月期より)

中小企業景況調査より、2018年4～6月期から2020年4月～6月の業況判断状況は以下のとおりである。

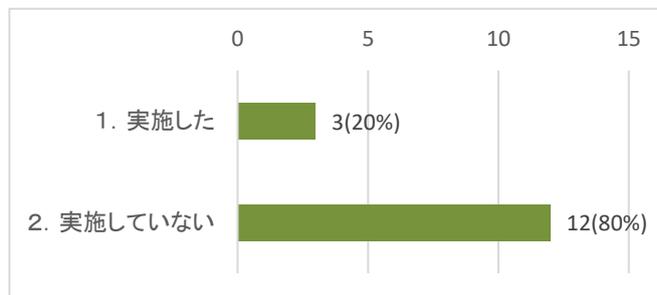


- ・2020年4～6月期の佐賀県の全産業の業況判断DIは、▲59.7(前期差38.3ポイント減)で、大きく減少となっている。
- ・全国DI値は▲64.1で佐賀県DI値より低い値となっている。
- ・神埼市は、15社分の集計結果であり参考値としてみていただきたいが、DIは▲80.0で、全国値、佐賀県値より低い値となっている。
- ・神埼市15社分の現在の景況感、設備投資状況は以下のとおりである。

<現在の景況感>



<設備投資 今季 2020年4月～6月>



<経営上の課題>

		経営上の問題点		
		1位	2位	3位
建設業	全国	民間需要の停滞	従業員の確保難	官公需要の停滞
	神崎市商工会	請負単価の低下・上昇難	民間需要の停滞	人件費の増加
製造業	全国	需要の停滞	生産設備の不足・老朽化	製品ニーズの変化への対応
	神崎市商工会	需要の停滞	製品ニーズの変化への対応	原材料の不足
小売業	全国	需要の停滞	消費者ニーズの変化への対応	大・中型店の進出による競争の激化
	神崎市商工会	消費者ニーズの変化への対応	需要の停滞	販売単価の低下・上昇難
サービス業	全国	需要の停滞	利用者ニーズの変化への対応	店舗施設の狭隘・老朽化
	神崎市商工会	需要の停滞	利用者ニーズの変化への対応	人件費の増加

- ・ 中小企業景況調査で、全国で約 8,000 件、神崎市商工会では 15 件が対象となっている。
- ・ 神崎市商工会地区でみると、建設業は「請負単価の低下・上昇難」、製造業、サービス業は「需要の停滞」、小売業は、「消費者ニーズの変化への対応」が最重要課題となっている。

◇保証月報(佐賀県信用保証協会より)

神崎市内事業所の金融保証承諾などは以下のとおりである。

単位：件、千円

	2019.5				2020.5			
	保証承諾		保証債務残高		保証承諾		保証債務残高	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
神崎市	5	13,640	337	2,475,789	78	1,987,000	378	4,250,789
佐賀県	159	1,130,726	9,870	75,175,405	1,836	40,303,660	10,780	115,441,881

- ・ 2020年5月の神崎市内中小企業の保証承諾件数は78件、金額は1,987,000千円で、前年同月比より大きく増加している。新型コロナウイルス感染症により、借入が激増している。
- ・ 保証債務残高は、佐賀県全体、神崎市とも、件数、金額ベースとも増加となっている。